

令和6年度入学 看護学部 社会人選抜 試験問題の出典

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	1	山口 裕之	「みんな違ってみんないい」の か？ 相対主義と普遍主義の問題	2022年 P88-94より 一部改変	筑摩書房

看護学部

小 論 文 (90分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、3ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあつた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

1

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

私は道徳的な正しさとは他人が関わる行為の正しさのことであり、それはその行為に関わる人たちが合意することで決めていくものだと考えていますが、現在の倫理学の主流とってよい立場である功利主義ではそのようには考えません。功利主義は、「最大多数の最大幸福」という唯一の普遍的原理によって道徳を説明しようとしています。つまり、道徳的な正しさについての「真実は1つ」という立場です。

功利主義は、18～19世紀、産業革命によって資本主義が発展した時代のイギリスで、ジェレミー・ベンサム(1748～1832)が唱えた説です。「最大多数の最大幸福」はベンサムの言葉です。およそすべての人間は幸福を求める。幸福こそが人間にとっての善である。それゆえ、個人の幸福を最大化すること、幸福な人の数を最大化することが正しい。個人が行為を選択するときにも、社会的な政策やルールを定めるときにも、「最大多数の最大幸福」が判断の原理となる。おおまかにいってそういうふうに考えます。

(中 略)

当初、ベンサムの思想は快楽主義や利己主義と混同され、当時の哲学者たちから「ブタの倫理」などいって嘲笑されました。しかし、功利主義は単なる快楽主義ではありません。目先の快楽に惑わされることなく、長期的な展望を持って、もっとも大きな幸福が得られる行為を選択するべきだというのが功利主義の考えです。

また、功利主義は利己主義でもありません。功利主義を英語では「ユーティリタリアニズム」といいます。「ユーティリティ中心主義」という意味です。哲学や倫理学の分野では「功利」と訳されるこの「ユーティリティ」という言葉の文字どおりの意味は「有用性」ですが、そもそも「物が役に立つ」とはどういうことかを突き詰めて考えると、結局のところは「人間の幸福に寄与する」ということになるでしょう。つまり、ユーティリタリアニズムとは「幸福中心主義」という⁽¹⁾ しゅしの言葉なのです。

他方、利己主義とは、他人をないがしろにして自分だけの利益を図ることです。そのようなふるまいをして人間は幸福を得られるのかというと、そうではないでしょう。ベンサムは明言していませんが、人間がいちばん幸福であるのは、自分が利益を得たときであるよりは、むしろ自分の行為によって家族や友人などが喜んでくれたとき、さらには社会全体に⁽²⁾ こうけんできたと感じるときではないかと思います。このように考えると、「幸福中心主義」は利己主義ではありえないというべきでしょう。実際、ベンサム自身、救貧法(貧困者の生活を支援する法律)の改正や監獄の改善など、貧困者や弱者の幸福が増大するような社会を目指して活動していました。

このように功利主義は、人間にとって善とは何か、どのような行為が正しい行為なのかを考えるうえで、なかなかもっともらしい思想です。それゆえに、現在の倫理学の主流とってよい立場を占めるに至ったのです。

しかし、功利主義にはこれまでにさまざまな批判が投げかけられてきました。まずは、^(A) 「他人の幸福をどうやって測ることができるのか」という点です。

自分の行為についてであれば、どうすれば自分がいちばん幸福になるかは基本的に自分でわかります(こ

ここで「基本的に」というのは、人間は目先の快樂に惑わされて長期的な幸福を失うこともしばしばあるからです。あるいは、「こうするのがいちばんよい」と思ってやった結果、あまり幸福にならなかつたら、選択が失敗だったことが自分でわかります。しかし、他人が何を得れば幸福になるのかは、どうすればわかるのでしょうか。また、よかれと思って決めた社会政策や法律がかえって当事者たちを不幸にしたとしても、それを決めた政治家にはそれがわからないこともあるのではないのでしょうか。

要するに、他人が関わる行為について何が正しいのかを「最大多数の最大幸福」という原理によって勝手に決めてしまっただけではいけないのではないかとということです。あるいは、「最大多数の最大幸福」という原理は普遍的であるように見えて、幸福を測る尺度という点では普遍性がなく主観的だという問題です。こうした点について、スーパーで何を買うかといった身近な場面から考えてみましょう。

まず、同じ商品がこちらのスーパーでは120円、あちらのスーパーでは100円で売られていたら、「最大多数の最大幸福原理」は簡単に適用できます。当然、100円の方で買うべきです。とはいえ、あちらのスーパーが少々遠いのであれば、「わざわざ遠くまで歩くこと」と「20円節約すること」のどちらがハッピーなのかを少々考えなくてはなりません。私なら歩きますが、お金よりも時間を節約する方が大きな幸福を得られると考える人も多いでしょう。

では、100グラム1,000円の牛肉と、250円の豚肉とでは、どちらを買うべきでしょうか。「牛肉を食いたいと思うが、牛肉はあまりに高い」とつぶやいて豚肉を買う私のような人もいるでしょうし、「牛肉は豚肉の4倍の幸福を私にくれる」といって牛肉を買う人もいるでしょう。これはもう、完全に個人の好みの問題です。自分がより幸福になると思う方を選択するしかありません。

そして、もしもあなたが自分の給料で1人暮らしをしているのであれば、何を買うかは自分の好みや価値観にもとづいて自由に選択すればよいでしょう。その場合、よその人がどんな好みを持っていようと私には関係ありませんから、「人それぞれ」といって放っておけばよい。スーパーで牛肉のパックを手にとった見知らぬ人に対して、わざわざ「牛肉でなく豚肉を買うべきだ」などと⁽³⁾ せつとくする必要はありません。

しかし、もしもあなたが1人暮らしでないならば、そういうわけにはいきません。たとえば、⁽⁴⁾ せいけいを共にする自分の夫がいつも牛肉ばかり買ってくるのであれば、妻としては「ちょっと待ってよ、毎日牛肉ばかりじゃお金ももたないじゃない。毎日牛肉だと飽きてくるし」などと言いたくなるでしょう。妻にそう言われたにもかかわらず牛肉を買いつづけたいのであれば、あなたは牛肉を買うべき理由を説明して、妻に納得してもらわなくてはなりません。

その場合、「最大多数の最大幸福原理」による⁽³⁾ せつとくを試みるならば、「高価な牛肉を買う方が安価な豚肉を買うよりも幸福だ」という、いささか矛盾したことを説明するはめになります。そこで、「牛肉は豚肉の4倍の幸福を私にくれるのだ」などと言ってみても、妻に「私は牛肉より豚肉の方が好き」と言い返されたら、あなたの好みと妻の好みのどちらが正しいのかを判定することはできません。結局、「牛肉と豚肉のどちらを買うのが普遍的に幸福なのか」を決めることはあきらめて、牛肉と豚肉を交互に買うなど、妻も納得し、自分も⁽⁵⁾ がまんできるような解決策を2人で見つけていくしかないでしょう。

このように、「正しい行為」が何かということは、その行為に関わる人の間で決めていくべきものです。自分1人しか関わらない行為の「正しさ」は考える必要がありません。それこそ「人それぞれ」に、自分がいちばんハッピーだと思う選択をすればよいでしょう。しかし、⁽⁴⁾ せいけいを共にする家族がいる場合には、スーパーの買い物だって自分1人だけに関わる行為ではなく、家族を巻き込む行為です。そして「正しさ」は、1つの行為に複数の人間が関わるとき、はじめて作られていくものなのです。

(山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか？ 相対主義と普遍主義の問題』, 筑摩書房, 2022年, pp.88-94より, 一部改変)

問1 下線部(1)~(5)を漢字で表しなさい。

問2 功利主義において、二重下線部 (A) の点について、作者はどのようなことが問題であると述べているか。175字以上200字以内で要約して述べなさい。

問3 「正しい行為」を選択することについて、作者の考えとあなた自身の経験を踏まえ、550字以上600字以内であなたの考えを述べなさい。